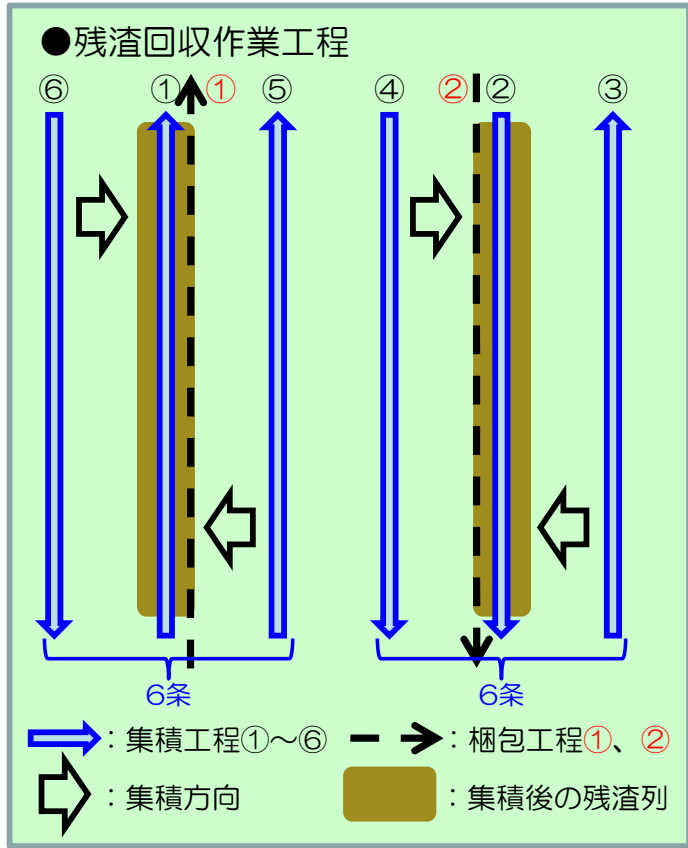


集積機構付きスレッシュャを用いた小豆収穫残渣の回収方法

- ◆ 集積機構を備えたスレッシュャとロールベアラを用い、小豆収穫残渣を効率的に回収
- ◆ 残渣の回収率は、スレッシュャでの集積時の残渣水分により変化する

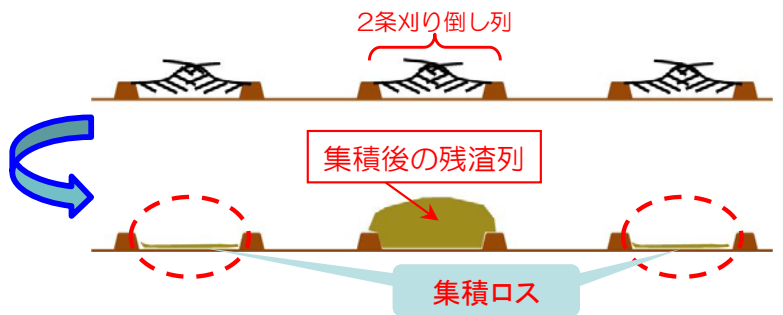


1. 集積工程①～⑥ (丸囲み部分：集積機構)
 残渣排出部分に集積機構を備えた2条けん引式スレッシュャで、2条ずつ排出方向を変えて6条分を1列に集積する。



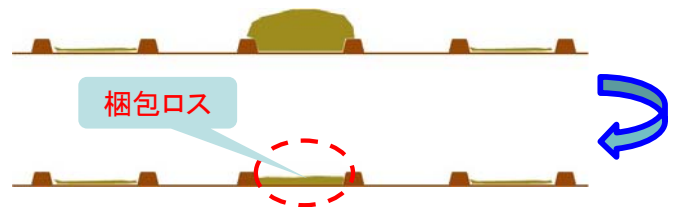
①、②：後方排出

③～⑥：左方排出



2. 梱包工程①、②

集積した残渣をロールベアラで梱包。
 梱包工程数は、集積工程数の1/3となる。



残渣水分と残渣回収率 (DM%：乾物割合)

試験年次	集積ありなし	残渣水分 (%)		全体回収率 (DM%)	ロス割合 (DM%)	
		集積時	梱包時		集積時	梱包時
H19	あり	52.4	20.9	94.2	1.8	4.0
	なし(慣行)		19.6	86.2	-	13.8
	あり	44.4	18.4	90.5	3.7	5.8
H20	あり	23.4	13.2	52.8	7.7	39.5
H21	あり	25.6	35.3	67.8	7.8	24.4
	あり	34.7	36.0	69.4	9.2	21.4



スレッシュャで粉砕された残渣

- ・ 未回収残渣は、集積時よりも梱包時に多い(梱包ロス)。
- ・ 集積時の残渣水分が低いと(40%以下)、スレッシュャにより残渣が粉砕され、ロールベアラでの拾い上げが困難になるため、梱包ロスは増える。

- ◎ 回収率向上には、適期作業に努めて刈り遅れを避け、集積時の残渣粉砕を避けることが重要。
- ◎ ベールの利用が保存を伴う場合には、集積後に晴天下で予乾し(1～2日)、残渣水分を30%以下としてから梱包することで、くん炭化を防ぐ。